

## 1. 事例テーマについて

・・・1事例に7つのテーマが含まれるものは禁止しているところですが、2～3テーマを含める場合は、それぞれのテーマで関わった時期が異なる場合、ケアプランなどそれぞれの時期のものを提出するのはもとより、特に第2表には、テーマに関係するニーズや目標、支援が位置付けられていることを確認するとともに、事例概要についてもテーマごとに各テーマにスポットを当てた書き方をすることが好ましいと思います。

|      |   |   |
|------|---|---|
| Q1-1 | 「7テーマの事例がない」<br>「現在担当しているケースの中では、該当するテーマがない。」 | <p>『7テーマの事例を提出し、演習に参加することを要件とした研修である』<br/>                 まずは、協会ホームページ掲載の「演習提出事例書類について」を熟読してください。</p> <p>①過去に扱ったケースでもよい。(その場合、過去3年以内を目安とする)</p> <p>②「事業所内で共有している事例」等を優先的に使うほうが、本人の実践の振り返りという研修の趣旨に合うと思います。</p> <p>③同事業所、同地区のケアマネより該当する事例を借り、自分で様式を作成してください。<br/>                 → 事例を借りの場合、自分の事例として発表出来るよう加工したり、想定し作成し直してください。<br/>                 その際、個人情報の扱いにはくれぐれも注意してください。</p> |
| Q1-2 | 「事例テーマがよくわからない」                               | <p>・協会ホームページ掲載「演習提出事例書類について」の&lt;選択表&gt;のキーワードを参照してください。</p>  |
| Q1-3 | 「過去の事例を提出してもよいか。」                             | <p>現在、継続して関わっているケースが望ましいが、終了ケースでも結構です。その場合、過去3年以内を目安とします。</p>   |
| Q1-4 | 「7つの事例テーマを網羅した1事例を提出してよいか？」                   | <p>上記の記載とおりです。・・・1事例に7つのテーマが含まれるものは禁止しているところですが、2～3テーマを含める場合は、それぞれのテーマで関わった時期が異なる場合、ケアプランなどそれぞれの時期のものを提出するのはもとより、特に第2表には、テーマに関係するニーズや目標、支援が位置付けられていることを確認するとともに、事例概要についてもテーマごとに各テーマにスポットを当てた書き方をすることが好ましいと思います。</p> <p>演習ではそれぞれのテーマを独立したものとして扱うため、それぞれの書類の提出にあたっては、必ずそれらのテーマが網羅されていることを確認してください。</p>  |

## 2. 事例テーマ「看取り等における看護サービスの活用に関する事例」について

この研修においては、看取りの時期に向けての支援事例となると思います。最期を迎える時期がある程度、医療者によって想定をされている状況においての支援事例のケアプランということになると思います。看取りを支援する中で、医療系の資源が関わった事例が望ましいですが、医療系以外の資源(介護サービスなど)の利用が看取りにおいて必要であったという学びにつながれば、その事例でも提出可能です。

|      |   |  |
|------|---|--|
| Q2-1 | ・「看取りの事例がない」  | <p>①「本人、家族に最期についての意向」を確認しているか？十分でなくても、確認できている事例を提出。看取り等となっていますが、意向の部分で、看取り、もしくは少し先にある終末期にむけてすすむ時期に、どのようにすごしたいのか、どのような最期を迎えようと考えているか、意向を聞きとれていけばよいと思います。</p> <p>看護サービスとは、終末期へ向かう期間、最期のとき、あるいは亡くなったときに、どこで・だれが・どんな医療サービスを使って経過観察、死亡診断、エンゼルケア、グリーフケア等を行うをするのか、によりサービス提供の形は様々ですが、医療・看護サービスの介入は必須であり、サービスを訪問看護に限定する必要はありません。</p> <p>②医療・看護サービス利用中の方を看取りと想定し、作成。</p> <p>③同事業所、同地区のケアマネより該当するケースを借りる。</p> |
| Q2-2 | ・「看取りプランの提出は可能か？」<br>※「看取りプラン」とは…「看取り加算」を算定する施設が使用している看取り支援の記録の様式のこと。 | ・「看取りプラン」の内容を、様式A-6～8(サービス計画書1～3表)に写し提出してください。   |
| Q2-3 | ・「区分変更中に急性期で亡くなったケース。その場合の主治医意見書はどちら(変更前か変更後)のものを提出したらよいか？」           | 区分変更中で、認定調査まで終了していれば、調査票と意見書が揃います。(その場合には、区分変更前と後の意見書が2つそろうことになります。)支援の経過にあわせて、アセスメントとプランの作成時に、情報収集・リスクの根拠として使用した情報の提供元である意見書がどちらのものかによります。また、区分変更後の認定が出た時の意見書を基に情報収集し、アセスメントしプラン作成したのであれば、後のものになります。  |

### 3. 事例テーマ「状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例」

「状態に応じた多様なサービス」では、「サービス付高齢者向け住宅等」や地域密着型サービスとして、前年度から追加された「地域密着型通所介護」も含まれません。

|      |                            |   |
|------|----------------------------|---|
| Q3-1 | ・「どのような事例を出せばよいかわからない」(居宅) | 演習の目的は、介護保険で提供される地域密着型サービス等の活用に係る知識及びケアマネジメント手法を修得することです。まずは、優先的に各自が担当している地域密着型サービスを活用している事例を提出してください。  |
| Q3-2 | ・「地域密着型サービスを計画したことがありません。」 | <p>関係機関や介護サービス事業者との連携が位置付けられており<br/> <b>多様なサービス事業者と情報を共有し、連携した取り組みがプランに位置付けられている居宅サービス計画書を提出してください。</b></p> <p>【ポイント】</p> <p>①小規模多機能型居宅介護等との連携(介護支援専門員の交代)</p> <p>②巡回・随時対応型訪問看護介護等との連携</p> <p>②<b>保健医療サービス(訪問診療、訪問歯科診療、訪問薬剤管理指導、栄養指導等)事業者等との連携例)排便コントロール、食事制限、水分制限、血圧測定など体調管理について、多様な事業者で情報を共有し、連携した取り組みがある事例</b></p> <p>③介護保険施設等との連携(入所・退所)</p> <p>④関係機関との連携(保険者、保健所等)</p> <p>⑤多職種によるアセスメントを反映</p> |

|      |   |  |
|------|---|--|
| Q3-3 | ・「どのような事例を出せばよいかわからない」(施設)                  | 上記のポイントを参照してください。特に施設サービスの場合、課題の解決だけでなく、多職種連携により、事故発生の防止に努めた事例や身体拘束が廃止された事例などでも結構です。   |
|      | ・「どのような事例を出せばよいかわからない」(グループホーム・小規模多機能型居宅介護) | まずは、Q3-3(施設)を参照してください。なお、運営基準の解釈には「地域の特性や利用者の生活環境に応じたレクリエーション、行事、園芸、農作業などの利用者の趣味、又は嗜好に応じた活動等が確保される」と記載されています。そのような取り組みを反映した事例でも結構です。 |

#### 4. 事例テーマ「リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例」について

|      |   |  |
|------|---|--|
| Q4-1 | ・「介護ベッドの利用がある」「杖のレンタルをしている」等の事例はこのテーマに当てはまるか？(居宅) | リハビリテーション及び福祉用具の活用というテーマであることから、単にベッドを借りている、杖を借りているというだけではテーマを満たさないこともあると思います。医師や専門職から自立支援のための環境整備等リハビリ的な助言や指導がある、ADL等の改善の手段として福祉用具を導入し、その評価が行われているなどの内容が好ましいと考えます。  |
| Q4-2 | ・「施設リハビリをしていないため、どのような事例を出せばよいか？」(施設)             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「機能訓練加算」をとっている→自立支援のための機能訓練を行っているので内容等を記載。</li> <li>・「機能訓練加算」をとっていない→自立支援のための取り組みが計画の中に入っていればよい。</li> </ul> 自立支援のための、排せつ誘導(時間誘導)・ポータブルトイレの利用・日中の生活リズムと整えるための視点。拘縮予防・筋力低下予防・本人らしさの追求のための楽しみの活動など。<br>施設では、専門職(PT, OT)がいない場合ほとんどなので、生活リハビリでもよいが、施設計画の中に位置付けられており、課題、目標、誰がどのように行うのかを記載しているもの。 |

#### 5. 事例テーマ「家族への支援の視点が必要な事例」について

|      |                                     |  |
|------|-------------------------------------|--|
| Q5-1 | ・「入所後、家族との関わりがなく、支援をしている事例がない。」(施設) | 介護保険施設や認知症対応型共同生活介護など多くの入所系サービスでは、運営基準において家族との連携が掲げられています。したがって、運営基準を遵守する形でサービスを提供している場合は、家族との接点を見出すことができると思います。そうした中で、家族に対して、援助的なかかわりを行っている例を取り上げ、家族支援という形で事例をまとめると良いと思います。 |
|------|-------------------------------------|--|

#### 6. 提出様式について

|      |                       |  |
|------|-----------------------|--|
| Q6-1 | A-4「主治医から得られた情報」      | 病名病状、方針についてなにを根拠にアセスメントしているのか、根拠になるものを記載、主治医意見書がなければ主治医からの口頭等でのコメントなどを記載。  |
|      | ・「主治医意見書がないため、作成できない」 |  |
| Q6-2 | A-5 課題整理総括表           | 検索エンジンのホームページにて「介護保険最新情報Vol.379」を検索するか、<br><a href="http://www.wam.go.jp/gyoseiShiryou/detail?gno=1920&amp;ct=020060090">http://www.wam.go.jp/gyoseiShiryou/detail?gno=1920&amp;ct=020060090</a> こちらのサイトの「本文」をご参照ください。 |
|      | ・「課題整理総括表の書き方がわかりません」 |  |

|      |  |  |
|------|--|--|
| Q6-3 | A-施8                                     | 施設により運用が異なるため、どちらでもかまいません。   |
|      | ・「第3表・週間サービス計画表と第4表・日課表は選択が可能か。」         |  |
| Q6-4 | A-10「評価表」                                | 検索エンジンのホームページにて「介護保険最新情報Vol.379」を検索するか、<br><a href="http://www.wam.go.jp/gyoseiShiryou/detail?gno=1920&amp;ct=020060090">http://www.wam.go.jp/gyoseiShiryou/detail?gno=1920&amp;ct=020060090</a> こちらのサイトの「本文」をご参照ください。 |
|      | ・「評価はモニタリング表(支援経過)に記載している。その様式を提出でよいのか？」 | モニタリング表の提出は、認められませんので、指定様式A-10に転記し、提出してください。   |
|      | ・「評価時期はいつがよいのか？」                         | ・短期目標更新時期に評価を行う。<br>・短期目標更新時期ではない場合は、現地点で評価し、作成。   |
|      | ・「支援経過の中に、評価も含まれているが…」                   | 支援経過の中の評価を「評価表」に転記。  |
| Q6-5 | A-11「支援経過」                               | ・その事例テーマに関連する主なポイントになる部分を抜粋してください。<br>・短期目標期間、または関連する記事のみをまとめる形で良いと思います。<br>(施設ケアマネー日誌に記載している為、どう提出すればよいのか?)<br>1表～3表を作成するに至った部分のみ抜粋してください。  |
|      | ・「どのくらいの(どの部分の)支援経過を提出すればよいのか？」          |  |

## 7. 事例を想定し(又は借りた場合)、作成する際の注意事項

|      |               |  |
|------|---------------|--|
| Q7-1 | A-2 アセスメント    | 宿題にて演習シートを記載し、当日のグループワークとなります。そのため、アセスメント、課題整理総括表を記載できないという状況になると、これらの演習シートも書くことが出来ず、演習での発表も難しくなります。そのため、これらの様式については必須です。(つまり、事例を借りる場合も、単に事例概要のみではなく、シートの記載が可能となる範囲で情報を提供してもらうことが必要となります。) |
|      | A-5 課題整理総括表   |  |
|      | A-11 支援経過     |  |
|      | A-9 サービス担当者会議 |  |
|      | A-10 評価表      |  |

## 8. 提出事例の目的について

- ① 事前に7テーマの事例を提出
- ② 「自身の実践を振り返る」という研修目的に基づき事例の作成
- ③ 各テーマ3時間の演習
- ④ 従来のような1事例1時間程度をかけた事例検討は行わず、⑤の内容の演習をおこなう。
- ⑤ 各自が持ち寄り事例を発表し、介護支援専門員としての7つのテーマ別に個別事例からみえてくる課題を一般化(他類似の事例の支援においても、共通して押さえておきたい視点を抽出)したり、地域課題を明らかにすることが演習の内容